

<広瀬川通信3月号>

NPO法人広瀬川の清流を守る会

広瀬川の水も温む頃となりました。如何お過ごしでしょうか？

今年は仙台市政120年目に当たり、それなりの記念イベントを催すと思いきや何もしないとのこと。理由は「市民からそれを求める声が無い。よって何もしない。」と120周年行事の有無を尋ねられた市側の考え方を、去る2月7日河北新報が報じた。と、昨日届いた「仙臺文化往来」2頁～いま仙台でなにが～に記載されていました。更に筆者は、宮城DCキャンペーンでは大金をかけて宣伝しながら、お金にならない記念日は止めにしたのではないかと、その無念さを強く訴えていました。確かに市民の宝である「文化度」を示す顕彰は、市民が120周年を次代に繋ぐ大切な節目だったはず。市側が、十分市民の声を聞かずに経済的理由で取りやめたことは、余りにも短絡的だと、同様に感じました。

平成17年、仙台市が県から広瀬川の河川管理移譲を自ら意思表示しながら、同じように経済的理由から途中で断念したことを思い出します。市は2000年、仙台開府400年記念事業として「広瀬川市民会議」を立ち上げ、本会も中心的に関わり、市民協働の目玉事業として軌道に乗せるときに、何の前触れも無く市は方向転換しました。当時市議会で、その転換を抗議する模様が見られましたが、どうすることもできなかったようです。

藩祖伊達政宗公は、1601年仙台開府に際し「千人橋下・河水千年・民安国泰・孰与堯天」詠じ、理想とする街づくりを広瀬川の耐えない流れに例え、永久の繁栄を祈りました。もとより、広瀬川は開府当時から歴史的に都市計画の柱の位置付けし、四谷用水はじめ重要な河川文化の都市として発展してきました。それを開府400年記念事業の目玉とし、今般の法改正に基づき、市長自ら河川管理権限移譲を唱え、その広瀬川の管理権限を県から市へと移譲し、直接的に市民の安全で豊かな川づくり実現と期待されていました。しかし、突然の「協働の意義」を置き去りにした市の姿勢は、正に「梯子を掛けて上がらせて梯子を外す行為」と映りました。いまだに市側は、市民のかけがえのない宝を大切にする心根がここにも欠けている。と、多くの市民が思っているのです。本当に残念ですね。

いよいよ、今年初の河川清掃です。春の広瀬川を観察しながら清掃にぜひお出かけください。



【報告】

2月10日	仙台市	広瀬川創生プラン策定推進協議会
2月12日	事務所	国交省仙台河川国道事務所 南副所長他来所
2月24日	事務所	例会 21年度計画ほか打合せ
2月26日	県自治会館	第5回広瀬川仮設魚道実行委員会
3月 5日	県大河原土木	講演テーマ「スマイルサポーター活動事例報告」
3月 5日	南大野田集会場	国交省・第10回「筑川環境整備懇談会」

《今後の予定 3月分・4月》

- 3月12日(木)13:30～ KKR ホテル仙台「宮城県知水講座」 座談会、懇親会
- 3月13日(金) 9:30～ 牛越橋 仙台高校「広瀬川清掃活動」 挨拶
- 3月14日(土)10:00～ 広瀬橋地区清掃 (軍手、長靴、火バサミを持参・無い方には貸与)
- 3月24日(火)19:00～ 事務所「例会」21年度事業予定 総会日程等他
- 4月11日(土)10:00～ 広瀬橋地区清掃
- 4月28日(火)19:00～ 事務所「例会」
- 4月29日(水)10:00～ 旧筑川清掃 (大野田ホテルの里づくり推進協議会)

【宮城県公開講座】知水講座の開催 (参加者募集)

日時 3月12日(木)13:30～

場所 KKRホテル仙台「蔵王の間」(仙台市青葉区錦町1-8-17 電話225-5201)

講演 (仮)「生物の生息環境に配慮した河川整備について」

講師 九州大学教授 島谷 幸宏氏

講演終了後に座談会と懇親会が催されます。(どなたも参加できますので、事前にご連絡を)

NPO法人広瀬川の清流を守る会

☎022-247-6522 ☎022-290-3205 ✉info@hirosegawa.com

URL www.hirosegawa.com 掲示板書き込み・メール・感想、質問、意見何でも歓迎です

〒982-0011 仙台市太白区長町1丁目2-16-201(昭和宅建内)